

十五夜は満月？

名月と言うほどですから、まん丸お月さんを頭に浮かべますが、今年（満月の日は9月の27日）月の光は実際は太陽の反射光であり、月は地球の周りを楕円形に27・32日かけて公転し、また地球は太陽の周りを365・25日かけて公転しています。（新月から満月になるまで平均して14・76日かかります。）月の満ち欠けを利用していた旧暦でも微妙なズレが生じるため、三年に一度閏月を入れて季節と暦の調整を行っていました。十五夜は満月の前後、もしくははちょうどその日と、年によって違います。



太陽を反射して輝く月。地球から見える位置関係で月の形も変わります。（月齢11.2）

また十五夜の日、太陽暦に置き換えると毎年同じ日にはなりません。（昨年10月6日、来年は9月14日）十五夜は月が最も美しく見られる日ということ、節分やひな祭りなどと同様に年中行事として千年以上の昔から親しまれ、現在にまで残っている文化です。



日本式庭園に池はつきものですが、池に月を捉えて天上世界を創り出す、また石庭に白い石が持ちいられるのも、月の光により輝き変化する様や暗い部屋の中に照り映える様を楽しむという趣向が凝らされているからです。お住まいがこのようなつくりであるところは、家の電気を消すと月明かりをお楽しみいただけると思います。



「船山キャンプ場から佐賀方面に見下ろした多久市内の夜景。月も静かに鑑賞できます」

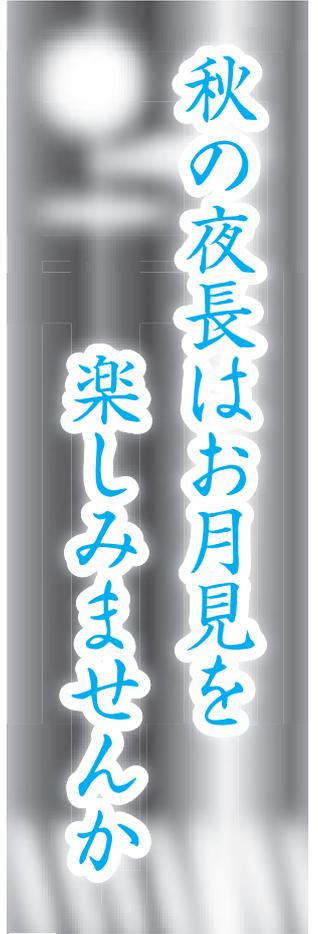
もう一つの名月は十三夜

旧暦9月13日（今年10月23日）は「十三夜」として十五夜とともに月見の風習として知られています。ただし十三夜の月見は日本独自のものです。日本ではこの頃がより天気がよく、空気も乾燥していますからより澄んだ夜空になります。中秋の名月に対し、後の月ともよばれています。十三夜の月は上弦が少し欠けた状態で見えます。

今年の十五夜頃の月		
月日（ ）は月齢	月の出	月の入り
9月25日（13.6）	17時15分	3時59分
9月26日（14.6）	17時45分	5時8分
9月27日（15.6）	18時17分	6時18分

今年の十三夜頃の月		
月日（ ）は月齢	月の出	月の入り
10月23日（11.9）	15時41分	2時44分
10月24日（12.9）	16時11分	3時52分
10月25日（13.9）	16時44分	5時3分

自宅でゆっくりと静かに見る方、山に登って月に照らされる下界を一望される方、あるいは花見同様酒宴をされる方もいらつしやるでしょう。電気が生み出す人工の光に囲まれている現代、月の輝く夜空の下で昔の人や宇宙に想いを馳せるのも一興かと思えます。



秋の夜長はお月見を

楽しみませんか

全国的に記録的な猛暑

今年はいつもの以上に暑い夏でした。8月16日には、日本観測史上最高の40・9度を埼玉県の熊谷市、岐阜県の大治見市でそれぞれ記録しました。こちらは、多久と同じく四方を山に囲ま

れている盆地。この日の多久市の日中気温は36度。盆地ならではの気象とはいえ、ここよりまだ暑い所があるのかと驚愕しました。この日、テレビでは地球温暖化との関係を指摘する放送が流れていました。

暑さ寒さも彼岸までと言いますが、例年9月の終盤になっても日中は蒸し暑さに悩まされます。ですがこの頃に

は、日が落ちると、過ごしやすい気温になり、あちらこちらで鈴虫やコオロギなどの虫の音がセミの喧騒に変わって、秋の訪れと心地よさを感じさせてくれます。空の主役も照り輝く太陽に変わって、穏やかな月の光が地上をやさしく照らします。

今年の中秋の名月は

9月25日

旧暦8月15日に出る月は「中秋の名月」または「十五夜」として古来より親しまれてきました。この時期の夜は暑くも寒くも無く、大気中の水分が低下して空が澄んでいるので月を鑑賞する

のにちょうど良いということから始まったようです。今年は9月25日がそれにあたります。風流をたしなまれる方はススキを花瓶にさして、三方に月見団子を乗せて縁側に飾り、月を見ながら一献という方もいらつしやるでしょう。ススキを飾るのは、魔よけ・無病息災を祈る、お団子は12個（あるいは十五夜にちなんで15個）作り、神様への豊作祈願・または感謝として捧げるのだそうです。

このお団子には一昔前は盗み食いの風習があり、こっそりよその子供が頂戴しても、盗まれた方にとっては、団子はお月様が食べてくれたもので縁起が良いこととされ、盗み食いされやすいようにとの配慮から縁側に飾るようになったとさえ言われています。お月見の団子は今も昔も子供の楽しみですが、最近はこのような風習を見られなくなりました。



西溪公園で撮影。この日は雲の合間から気まぐれに月が顔を出した。

